

京都教育大学フォーラム2025

教師の学びあい 共に成長する 授業づくり・授業研究



2025年12月13日(土) 13:30 ~ 16:30 (開場13:00)

場所：キャンパスプラザ京都 5階 第1講義室

本フォーラムでは、本学が目指してきた教師の学びやよりよい授業づくりにつながる教員研修の在り方について共有します。授業づくり・授業研究を個人の努力にゆだねるのではなく、組織的・継続的に支える仕組みとは何か、教師の成長をもたらす研修とはどうあるべきかについて、京都府ならびに京都市の教育委員会における取組・実践と本学が進める研究の2つの側面から考えます。

プログラム

13:30 開会あいさつ 太田 耕人 (京都教育大学長)

13:35 趣旨説明 谷口 和成 (京都教育大学 教授・研究推進室員)

13:40 取組報告

京都府与謝野町立加悦小学校

安達 佳代子 校長 室田 裕之 教諭

京都市立向島秀蓮小中学校

太田 美佐和 校長 越田 友喜 教諭

14:50 講演 『教師の「部活動」としての、校内研修へ
ー「当たり前」を疑い、教師としての
「体幹」を育てることを目指す！』

講師 宮本 浩治 (岡山大学 教授)

16:00 意見交換

16:25 閉会あいさつ 谷口 匡 (京都教育大学 副学長・研究推進室長)

16:30 閉会

司会進行 山内 朋樹 (京都教育大学 教授・研究推進室員)

主催：京都教育大学

後援：京都府教育委員会・京都市教育委員会



講演

教師の「部活動」としての、校内研修へ —「当たり前」を疑い、教師としての 「体幹」を育てることを目指す！

【講師】宮本 浩治 (MIYAMOTO Kouji) / 岡山大学 教授

プロフィール：専門は国語教育学。高等学校、広島大学附属中・高等学校において教員として勤務した後、武庫川女子大学に赴任し、現在は岡山大学にて勤務。研究領域、テーマとしては、国語科の読むことの学習を中心にして授業論の構築とともに、国語学力論・評価論の議論を行っている。さらに、教員養成教育のあり方や教師の職能成長のあり方など、教師教育に関する研究を行う。主な著書は、「小学校国語NGから学び直す発問」（共編著，明治図書），「言語コミュニケーション能力を育てる—発達調査をふまえた国語教育実践の開発」（分担執筆）など。



「教師は学校で育つ」と言われます。2015年の中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」では、教員の学びの支援が重視されることとなりました。さらに、教員養成・採用・研修の一体的な改革が提案されました。

これまで、学校現場において、「教員の成長・育ち」を支えてきたものは、校内研修や授業研究でした。とはいえ、校内研修自体に負担感を感じる先生たちがいるのも事実です。また、授業を公開することに不安を感じる先生たちがいるという現実も存在します。

岡山大学教育学部では、岡山県教育委員会津山教育事務所と協賛し、「校内研修の枠組みの構築」＝「組織的として学ぶ」ということ、さらに、「教員の職能成長」＝「一人ひとりの教員が「自分事」として、楽しく学べる」ということを目指した取り組みを行ってきました。当日の議論としては、この教育委員会と協働した取り組みの成果が中心となります。

そして、取り組みの「合い言葉」は、「部活動」です。教員研修、校内研修としての「部活動」、その「理想的な姿」を求める試行錯誤の取り組みを事例としながら、組織的・継続的に授業研究や授業づくりを支えるシステムの具体について議論していきたいと考えています。

さらに、研修が、教師の成長にいかに関与したのかということ、組織としての取り組みの変化等についても報告していきます。組織としての取り組みが教員一人ひとりをいかに勇気づけることになったのか、そして教師としての「体幹」を育てることになったのかを議論していきたいと考えています。

当日の報告が、先生方の取り組みに、何かしら参考になることを期待しています。



ごあいさつ

太田 耕人 (OTA Kojin) / 京都教育大学長



京都教育大学はこのフォーラムを通じて、その問題意識と研究成果を社会に発信しています。昨年までの3年間は非認知能力をテーマとし、たいへん多くの参加をいただきました。

今回は「教師の学びあい」の視点から、授業づくり・授業研究を考えます。

令和4年、中央教育審議会が研修観の転換を打ち出しました(「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」)。

目指すのは、「新たな教師の学びの姿」(個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた、「主体的・対話的で深い学び」)の実現です。

これは「令和の日本型学校教育」が示した子どもたちの学び、すなわち「主体的・対話的で深い学び」を、教師の学びにも適用したものです。答申は「教師の学びの姿も、子供たちの学びの相似形」(p. 22)であると述べ、教師もまた、従来の知識伝達型の研修ではなく、個別最適な学びと協働的な学びを往還し、他者との対話や振り返りを通じて学ぶよう求めています(p. 41)。

この「協働的な学び」が、いま「教師の学びあい」として注目されています。しかしながら、研修観の転換はかなりたいへんそうです。

各地の実践報告を読んでみると、伝達型講習の中で設けられたグループ対話や、OJTでの声かけなどを、「学びあい」と称している例が見受けられます。また、教師間の信頼構築、バーンアウトの予防、就業意欲の維持などが、目的とされている場合もあります。こうした研修が有効であるとしても、これを「主体的・対話的で深い学び」に基づく「学びあい」と呼ぶのは難しいように思います。

——育成担当者がファシリテーターとなって、率直に語り合えるコミュニティを形成し、学び手である教員の気づきや変化を促す。その過程で育成担当者も問題を再認識し学び直す。これが「学び手である教員が主語になる学びあい」のデザインです。

本日は、現場の実践と理論的考察を交差させ、「学びあい」を問い直すことで、ご参加の方々になんらかの気づきをもたらすことができればと存じます。実りある時間を共有することができれば幸いです。



開催趣旨



谷口 和成 (TANIGUCHI Kazunari) /

京都教育大学教授・研究推進室員

プロフィール: 専門はプラズマ物理学、科学教育。現在の研究テーマは、理科教育における概念理解を促し、科学的思考力を育む認知的／非認知的支援のあり方。関連して、公立学校において、年間20件以上の教員研修や研究授業の講師、助言を行っている。2019年4月から2023年3月まで4年間、京都教育大学附属高等学校長を兼務。

変化の激しい予測困難なこれからの時代において、子どもたちには、自ら問いを立て、他者と協働して未来を切り拓く資質・能力がより一層求められます。京都教育大学フォーラムでは、この3年間にわたって、その資質・能力のひとつであり児童・生徒の学びを支える「非認知能力」を教育現場でいかに見取り、育成していくべきかを探って参りました。

次期学習指導要領に向けた教育課程の検討が始まり、今後は教師自身も互いの実践から学び、対話を通じて共に成長し続ける姿勢が求められます。そこで今回は、これまでの成果を教育現場に発展的に還元するために「教師の学びあい」をテーマとしました。フォーラムでは、教育現場からの実践報告に加え、岡山大学の宮本浩治先生に教師教育の視点からご講演をいただいた後、会場の皆様のご意見も交えて、教師の学びあいを「進める／勧める／薦める」ための新たな知見を共創して参ります。

本フォーラムが、教師自身が成長を実感し、授業づくりや授業研究の充実につながる契機になれば幸いです。



取組報告

安達 佳代子 (ADACHI Kayoko) / 京都府与謝野町立加悦小学校 / 校長
室田 裕之 (MUROTA Hiroyuki) / 京都府与謝野町立加悦小学校 / 教諭

本校は令和4年度から4年間、京都府教育委員会の指定を受け、「教科担任制を見据えた系統的な学び推進事業」に取り組み、授業改善を軸に研究を進めてきました。

私たちが一貫して大切にしてきたのは、「主体的に学習に向かう児童の育成」です。そのために、教員自身が主体的に研究に向き合うことを重視し、毎年の成果と課題をもとに校内組織や研究内容を見直してきました。

また、毎回の授業研究を自分事として捉え、学び合う文化を築くことを目指してきました。互いの実践に触発されることで授業が変わり、児童の学びも深まります。こうした過程を経て、教員が日々の授業に新たな工夫を取り入れようとする姿が日常に根付き、学校全体に挑戦を支え合う風土が育ちました。

一人一人の授業力向上が学校全体の教育の質を高める——その思いを共有しながら、全員で試行錯誤を重ねてきた4年間の取組を紹介します。

太田 美佐和 (OTA Misawa) / 京都市立向島秀蓮小中学校 / 校長
越田 友喜 (KOSHIDA Tomoki) / 京都市立向島秀蓮小中学校 / 教諭

本校は開校から7年目を迎える義務教育学校です。学校教育目標「他とのつながりを大切にし、『未来を拓く力』を育成する～知らない自分に会いに行け～」の達成に向けて日々取り組んでおります。開校当初は「変える・変わる」というキーワードを掲げ、小学校でも中学校でもない新しい学校づくりに取り組んできました。開校から6年が過ぎ、教職員の入替わりも進み、昨年度より「つながり」をテーマに、これまで実績とこれからの教育をつなげていくことを大切に研修、実践に取り組んでいます。

学校教育全体で「自己調整力」育成に向けて、学力向上では「授業改善」「反転学習」、非認知能力の育成では「SEL-8」「総合育成支援教育」、健康面では「睡眠指導」「体力向上」等に取り組んでおり、教職員の取組に対する理解、指導力の向上に向けて、校内研修が果たす役割、校内研修の工夫を中心にお話させていただきます。成果と課題も踏まえてありのままをお聞きいただければと思います。